

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第7号(11月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

《特に注意》

【バラ科果樹】	クビアカツヤカミキリ
【きゅうり】	コナジラミ類(退緑黄化病)
【野菜類・花き類】	シロイチモジヨトウ

《11月の予報概要》

A 水稻

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稻	ジャンボタニシ(発生に注意)				

B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん	貯蔵病害(発生に注意)				
果樹類全般			果樹カメムシ類		

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い	
きゅうり		べと病				
		うどんこ病				
				褐斑病		
		アザミウマ類				
		黄化えそ病(発生に注意)				
				コナジラミ類		
		退緑黄化病(発生に注意)				
トマト	葉かび病・すすかび病					
			コナジラミ類			
	黄化葉巻病(発生に注意)					

C 野菜類 (続き)

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
あぶらな科 野菜			根こぶ病		
			菌核病		
			コナガ		

D 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜 花き類				シロイテモジヨトウ	
			ハスモンヨトウ		
			オオタバコガ		
		アブラムシ類			

《(参考) 11月の気象予報》

気温	低い (30%)	平年並 (30%)	高い (40%)
降水量	少ない (40%)	平年並 (30%)	多い (30%)
日照時間	少ない (30%)	平年並 (30%)	多い (40%)

(大阪管区气象台 10月27日発表)

A 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
ジャンボタニシ (スクミリンゴ ガイ)	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて越冬貝を減らす。土中の浅いところ(6cm未満)に潜って越冬することが多いため、耕耘を浅く、ロータリーの回転を速くする。 耕うん機等の土に貝が付着することがあるので、ほ場を移動する際はしっかり土を落とす。

B 果樹

1 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤ カミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害が大きい樹は伐採し、破碎(チップの厚さは10mm以下を目安)や焼却することが望ましい。 伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。クビアカツヤカミキリの幼虫は根部も加害することから、伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い内部の幼虫の羽化後の分散を防ぐ。

2 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
貯蔵病害	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 青かび病、緑かび病、軸腐病などがある。 青かび病や緑かび病は主に傷口から感染するので、収穫時果実に傷をつけないように注意する。 果実が濡れている時は収穫しない。貯蔵を始める前に果皮を乾燥させる（予措）ことで貯蔵後の腐敗が少なくなる。 庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にして貯蔵する。 貯蔵果の点検はたびたび行い、腐敗果を取り除き伝染を防ぐ。

3 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 予察灯への飛来虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。 薬剤防除は夕方か早朝に行うと効果的である。

C 野菜類

1 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	やや少ない～平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月の巡回調査では、発生は平年並であった。 11月の降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 気温20～24℃で発生が多い。 排水を良好にし、多湿・結露を避ける。 薬剤耐性菌が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI剤、SDHI剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。 予防散布が大切である。
うどんこ病	やや少ない～平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月の巡回調査では、発生は平年並であった。 11月の降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。 被害葉を除去し、風通しを良くする。 薬剤耐性菌が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI剤、SDHI剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。

<p>褐斑病</p>	<p>やや多い</p>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では、発生はやや多かった。 ・11月の降水量は少なく、気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温、多湿の施設栽培で発生が多いことから、施設内の換気を良好にする。 ・被害葉、老化葉は早めに除去する。 ・初期防除が重要である。 ・QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。
<p>アザミウマ類 (キュウリ黄化えそ病)</p>	<p>やや少ない ～平年並</p>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <p>【アザミウマ類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。また、<u>ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病のウイルス（メロン黄化えそウイルス（MYSV）：きゅうり、メロン、すいか、しろり、にがうり等に感染）等を媒介する。</u> ・施設の開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネット又は 0.4mm 目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場及び周辺の除草を行う。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>【キュウリ黄化えそ病】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。 ・<u>MYSVに対する有効な薬剤はないため、媒介昆虫であるミナミキイロアザミウマの早期発見・早期防除に努める。</u> ・発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
<p>コナジラミ類 (キュウリ退緑黄化病)</p>	<p>やや多い ～多い</p>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では、発生はやや多かった。 ・11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <p>【コナジラミ類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。また、<u>タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病のウイルス（ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）：きゅうり、メロン、すいか等に感染）等を媒介する。</u> ・施設の開口部を 0.4mm 目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場及び周辺の除草を行う。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

		<p>【キュウリ退緑黄化病】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。 ・<u>CCYVに対する有効な薬剤はないため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見・早期防除に努める。</u> ・発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
--	--	---

C 野菜類

2 トマト・ミニトマト（施設栽培）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	少ない～ やや少ない	<p>【予報の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・11月の降水量は少ないと予想されている。 <p>【注意すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過湿条件で発生しやすい。 ・すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。 ・被害茎葉は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・多発時には、防除が困難であるため、予防的散布が大切である。 ・薬剤耐性菌が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI剤、SDHI剤は、1作1回程度の使用に努める。
コナジラミ類 （トマト黄化葉 巻病）	平年並	<p>【予報の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・11月の気温は高いと予想されている。 <p>【コナジラミ類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸汁による果実の着色異常のほか、すす病、タバココナジラミによるトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）の媒介など様々な被害を引き起こす。 ・施設栽培では、開口部を0.4mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場及び周辺の除草を行う。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>【トマト黄化葉巻病】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TYLCVに対する有効な薬剤は無いため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見・早期防除に努める。 ・発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。

3 あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
根こぶ病	平年並	<p>【予報の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月の巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>【注意すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あぶらな科野菜の連作を避ける。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場を避ける。 ・ 土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH7程度に調整する。 ・ 発病株は見つけ次第根ごと抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。
菌核病	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月の巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 菌核が土中に残って伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・ なばなやレタス等、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作は防除効果がある。
コナガ	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月の巡回調査では、発生はやや多かった。 ・ 10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、一部地域で少なく、その他の地域では平年並であった。 ・ 11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生初期に防除を行う。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジ ヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、一部地域で多く、一部地域で少ないなど地域によって大きく異なった。 ・ 11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広食性で、多くの作物を加害する。 ・ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
ハスモンヨトウ	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、ほとんどの地域で平年並であった。 ・ 11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広食性で、多くの作物を加害する。 ・ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

オオタバコガ	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年並であった。 ・11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広食性で、多くの作物を加害する。 ・発生初期（若齢幼虫期・食入前）に防除を徹底する。 ・幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。 ・摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場から持ち出し処分する。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
アブラムシ類	やや少ない ～平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黄色水盤への誘殺虫数は、やや少なかった。 ・11月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/> (8月24日付けで、病害虫防除指針内容を更新しました。)

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>